

《担当者名》飯田貴俊 tiida@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

顎口腔機能に障害を持つ患者に対応する上で必要となる歯科学の基礎知識を学ぶ。特に、言語聴覚士が対象とする障害、疾患に関連する口腔領域の問題について詳細に学ぶ。

【学修目標】

言語聴覚士が言語聴覚療法を実施するために必要な口腔領域の解剖と機能を理解し、さらに他職種連携のための歯科学理解を深める。

1. 口腔・歯の構造・機能の概要を説明する。
2. 歯科医療の概要および言語聴覚士との関わりについて説明する。
3. 歯科疾患について説明する。
4. 歯科治療について説明する。
5. 誤嚥性肺炎の発症機序、予防のための口腔ケアの予防効果について説明する。
6. 超高齢社会における『口腔機能低下症』について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 歯科医療の概要 歯科と言語聴覚士のかかわり 歯科治療の特徴 歯の形態・構造・機能	講義に概要について説明する。 歯科医療の概要について理解する。 歯科治療の特徴について理解する。 口腔・歯の形態・構造・機能について理解する。	飯田貴俊
2	歯の形態・構造・機能 歯の発生、歯の萌出	口腔・歯の形態・構造・機能について理解する。 歯の構成要素（エナメル質、象牙質、セメント質、歯髄）、歯周組織について理解する。 歯の発生や、歯の萌出時期、萌出順序について理解する。	飯田貴俊
3	口腔の形態、構造、機能 歯科診療科のバリエーションについて	口腔の形態、構造、機能について理解する。 他職種連携のため歯科診療科について理解する。	飯田貴俊
4	歯科疾患（う蝕、歯髄炎、歯周病、歯列不正等）	歯科疾患（う蝕、歯髄炎、歯周病、歯列不正等）の原因、重症度について理解する。	飯田貴俊
5	歯科治療（保存修復、歯内療法、歯周病治療、補綴、矯正等）	歯科治療（保存修復、補綴、矯正等）の概要について理解する。	飯田貴俊
6	口腔ケアと口腔健康管理について	口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防効果、口腔ケアの具体的方法を理解する。	飯田貴俊
7	嚥下補助装置について	摂食嚥下障害に対する補綴的治療（舌接触補助床、軟口蓋挙上装置等）について理解する。	飯田貴俊
8	超高齢社会と『口腔機能低下症』について	超高齢社会で求められる口腔機能へのニーズと、『口腔機能低下症』について理解する。	飯田貴俊

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（100％）

- ・定期試験および追再試験については、誤りの多かった設問に対して解説する。

【参考書】

道健一 他 編 「言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 - 器質性構音障害 第2版」 医歯薬出版 2016年

【学修の準備】

シラバスでのテーマと授業内容に対応する範囲を配布資料、参考書で予習しておくこと。特に専門用語についてはその意味を理解しておく。

予習は、次回の範囲の配布資料・参考書を読み、講義内容を理解しておく。（80分）

復習は、配布資料・講義の学習内容をまとめたノートを作成する。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

飯田貴俊（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯科医師としての実務経験を活かし、言語聴覚士として必要な歯科関連の知識について講義を行う。